

事務事業名		環境保全啓発事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	012 自然豊かな環境の保全と創造			事業期間		予算科目				
	施策名	015 環境の保全と共生					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	012 港湾・河川環境の保全			☐ 単年度のみ		01	04	01	03	10
所属	根拠法令				☒ 単年度繰返 (開始 S59 年度～)						
	部課名	生活福祉部市民生活環境課			☐ 期間限定複数年度 【計画期間】						
	課長名				年度～年度						
	係名	環境衛生係			全体計画欄の総投入量を記入						
	担当者		電話								
			内線	124							

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

・平成12年度に開催した「大船渡湾浄化フェア2000」の内容を引き継ぎ、様々な場での水質浄化啓発事業を行う。

・市内小中学校に水生生物調査への参加を呼びかけ、参加状況の集約を行い実施主体である県に報告している。

また、実施団体に対する用具の貸し出しの他、参加者には記念品を贈呈している。

・事業費は水生生物調査参加者への記念品代等に支出している。

・環境保全への取り組みを推進する上で若手県との共催により環境報告会を実施する。

総投入量 (千円)	事業費内訳	国庫支出金	
		都道府県支出金	
		地方債	
		その他	
		一般財源	
		事業費計 (A)	0
人件費	正規職員従事人数		
	延べ業務時間		
	人件費計 (B)	0	
	トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	単位
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 環境保全啓発事業実施数	回
・大船渡湾浄化フォーラム(10/24～25環境コーナー、11/14環境フォーラム)		イ 水生生物調査参加団体	団体
・水生生物調査(小・中学校8校及び1団体)		ウ	
・環境報告会(10/27太平洋セメント大船渡工場 若手県との共催)			
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
・市産業まつり 環境コーナー出展		名称	単位
・大船渡湾浄化フォーラム(環境フォーラム)		カ 市内行政人口(3月31日現在)	人
・水生生物調査(小・中学校9校及び1団体)		キ	
・環境報告会(若手県との共催)		ク	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
市民		名称	単位
		サ 水生生物調査参加者(延べ)	人
		シ 環境セミナー(フォーラム)参加者	人
		ス 環境クイズ回答者数	人
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)			
大船渡湾の浄化対策をはじめとする意識啓発を行うための事業を実施し市民が参加することにより、大船渡湾の浄化についての市民の意識を向上させる。			
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
環境負荷を軽減し、公共用水域の水質を保全する。			

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	90	91	99	85	82	117	
		事業費計 (A)	千 円	90	91	99	85	82	117	
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	5	5	
		延べ業務時間	時 間	300	300	300	300	300	300	
		人件費計 (B)	千 円	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	
		トータルコスト(A) + (B)	千 円	1,290	1,291	1,299	1,285	1,282	1,317	
活動指標	ア	回	3	3	3	3	3	4		
	イ	団体	13	12	12	10	9	9		
	ウ									
対象指標	カ	人	43,209	42,575	42,158	41,684	41,334	40,537		
	キ									
	ク									
成果指標	サ	人	350	445	498	393	292	281		
	シ	人	130	130	100	160	204	175		
	ス	人	477	525	305	389	530	800		

事務事業ID	0074	事務事業名	環境保全啓発事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

・水生生物調査については、昭和59年度から、県の取り組みに呼応して水質保全意識の高揚と環境教育の一環として実施している。

・大船渡湾浄化フォーラムについては、平成12年度に実施した「大船渡湾浄化フェア2000」の際に行った大船渡湾の水質浄化意識の向上という取り組みを引き継ぐものとして平成13年度より実施してきている。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

・水生生物調査については、現在では市内小中学校や地域団体等の協力で参加者も増え、定着している。

・大船渡湾浄化フォーラムについては、実施開始当時と現在を比較すると、取り組みを継続してきた結果、大船渡湾浄化に対する意識向上は少なからず図られてきていると推察される(調査のためのバックデータがないので、あくまで推察)が、直接的に大船渡湾の水質浄化には繋がっていないのが現状である。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

特に寄せられていない。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 大船渡湾浄化フォーラムについては、継続して取り組んできていることにより大船渡湾浄化に対する市民の意識向上が図られてきており、水生生物調査については、参加者が低年齢層であるため、環境教育の一環として有効な効果を発揮している。また、環境報告会は環境保全への取組みを推進するうえで有意義な内容になっており、これらの事業の実施は、公共用水域の水質保全に結び付く。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 大船渡湾浄化フォーラムについては、大船渡湾の水質改善が目に見えて現れていない現状では、市の関与なしには進めることはできないと思われる。水生生物調査については、環境教育の一環として小中学校が実施しているため、完全に手放しにすることは難しい。環境報告会は県との共催で実施しているので市の協力なしに実施はできないと思われる。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 市民全体を対象とすることにより、市内の良好な生活環境を保持・改善していくための意識啓発が図られるものであり、対象を一部の市民に限定すべきものではない。市が実施する啓発事業に参加してもらうことが、環境に対する意識を持つきっかけとなる。また、既に環境に対する意識が高い市民においても、更なる意識の向上が図られるため、適切である。
有効性 評価	成果の向上余地	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 環境教育や大船渡湾浄化の推進に寄与するため良好に実施されているので成果向上の余地はない。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 市内の良好な生活環境を保持・改善するためには、行政による直接的な施策のほか、市民個々の取り組みが重要であることから、フォーラムや水生生物調査、環境報告会などの啓発活動・環境教育活動を継続して実施する必要がある、廃止・休止はできない。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 類似事業はない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 現在の事業費は、人件費以外は参加者へ贈呈している記念品のみであり、その内容は必要最小限のものである。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 内容的に、外部委託できるものではないため、業務所要時間の削減余地はない。水生生物調査で一部行っている職員派遣指導については、団体での指導者が養成された場合、業務所要時間の短縮を図るため、廃止について検討する必要があるが、現在はその段階にはないので削減の余地はない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 大船渡湾浄化フォーラムは、市民全体を対象に意識啓発のために実施している事業であり、適正化の余地はない。水生生物調査については、参加者への意識啓発の他、その結果を市民に周知して水質浄化に対する意識啓発も期待される事業であり、効果が一部の受益者に偏るものではない。また、環境報告会は広く参加者を募って実施しているものであり、適正化の余地はない。

事務事業ID	0074	事務事業名	環境保全啓発事業
--------	------	-------	----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)	(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
<table><tr><td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>有効性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr><tr><td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr></table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	市産業まつりでの環境コーナーは、大船渡湾浄化フォーラムとしてではなく一般廃棄物試験分別収集事業の啓発を実施したが、来場者の指標としている「クイズ」の参加者も多く好評であった。環境フォーラムは、大船渡地方振興局、市、各種団体等の共催により、パネル展示や講演会、事例発表会などを実施し、盛況であった。水生生物調査も好評であり、また、環境報告会は太平洋セメント大船渡工場の環境保全の取り組みを学ぶことができた。さらに、市広報への記事掲載や、エコライフ推進事業の際に地域で湾浄化の説明を行ったほか、大船渡市環境保全推進協議会や大船渡市公衆衛生組合連合会と協力して、各種啓発事業を実施した。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(4) 改革・改善による期待成果																					
<table><tr><td>☐ 廃止</td><td>☐ 休止</td><td>☐ 目的再設定</td><td>☐ 事業統合・連携</td><td>☒ 現状維持</td></tr><tr><td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td></tr></table> (上記方向性に対する具体的な内容) 今後も、大船渡湾浄化フォーラム事業、水生生物調査、環境報告会などイベントの活用による環境保全の啓発を継続して開催し、市民に対して、湾浄化や環境保全のための意識啓発を図っていく。	☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)					左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)											
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																		
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																						
<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>●</td><td>×</td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																						

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	市民生活環境課長
-------	----------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
☒ 一部記述不足のところがある
☐ 記述は十分なされている

評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☒ 一部に客観性を欠いたところがある
☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

参加者が減少傾向にあるものもあり、成果向上の余地について分析が十分になされていない。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- | | | | | |
|---|-----------------------------|--------------------------------|----------------------------------|--|
| ☐ 廃止 | ☐ 休止 | ☐ 目的再設定 | ☐ 事業統合・連携 | ☒ 現状維持 |
| 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) | | | | |

(上記方向性に対する具体的な内容)

東日本大震災の影響によって、実施場所が限定されたり、開催が未定であるなど、現状どおりの開催が困難になっている。当面、現状どおりの実施を目指して事業に取り組んでいく。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項